

原因不明の発熱（感染性心内膜炎の一例）

2006年11月18日

徳之島徳洲会病院 研修医 比嘉裕樹
指導医：徳之島徳洲会病院 小野隆司
指導医：名瀬徳洲会病院 生野俊治

《症例》

大動脈弁置換術の既往のある74歳の男性

《主訴》

2日前から続く発熱・全身倦怠感を主訴に受診。

《所見》

受診時、意識清明、血圧120/80、脈拍60回/分、体温38.4℃、呼吸数16回/分、SpO₂98%、診察所見上は熱源を示唆する有意所見はなかった。

《症状経過》

同日、精査目的で入院となった。入院後、熱源精査のため各種画像検査を行うも有意所見はなく、発熱に対してはアセトアミノフェンで対症療法を続けていた。

第12病日、入院時の血液培養3セット全てで腸球菌陽性と分かり、感染性心内膜炎の臨床的診断基準、大項目1コ（血液培養3セット陽性）・小項目2コ（基礎疾患：大動脈弁置換術後、38℃以上の発熱）より确实診断は満たさないが、可能性が極めて高いと判断し、ABPC8g/日 + GM180mg/日を開始した。

投与翌日より解熱し、全身倦怠感や関節痛などの臨床症状も消失、食事摂取量も9～10割と改善した。抗生剤投与後3日目の血液培養は3セットいずれも陰性であった。その後は週1回の採血・検尿を行ったが炎症反応は陰性のまま経過、2週に1回心エコーでも異常は認めなかった。

12月3日、ABPC（6週間）を終了、抗生剤終了後2日目に施行した血液培養は3セット共に陰性であった。

12月6日退院となった。